

5. 鎌倉仏教①

	宗派・開宗	開祖	総本山	主要著書	教義と特色
浄土宗系	浄土宗 [1175]	法然	知恩院 (京都府)	『 ^{せんちやくほんがんにんぶつしゅう} 選択本願念仏集』	ひたすらに南無阿弥陀仏を唱えること(専修念仏)
	浄土真宗 (一向宗) [1224]	親鸞	本願寺 (京都府)	『教行信証』 (弟子・唯円『 ^{たんにしやう} 歎異抄』)	一念発起して念仏を唱えれば、直ちに往生 煩惱深い悪人こそ救われる(悪人正機説)
	時宗 [1274]	一遍	清浄光寺 (神奈川県)	一遍は死の直前に、著書や経典を焼き捨てた。 (弟子『一遍上人語録』)	信心の有無、浄・不浄を問わず、念仏を唱えれば救われる 踊念仏によって布教
日蓮宗系	日蓮宗 (法華宗) [1253]	日蓮	久遠寺 (山梨県)	『立正安国論』	題目(南無妙法蓮華経)を唱えれば救われる 「念仏無間・禅天魔・真言亡国・律国賊」(四箇格言)と言って、他宗を激しく非難
禅宗系	臨済宗 [1191]	栄西	建仁寺 (京都府)	『興禅護国論』 『喫茶養生記』	座禅を組みながら、師から与えられる公案を解決していくうちに悟りの境地に達する
	曹洞宗 [1227]	道元	永平寺 (福井)	『 ^{しょうぼうげんどう} 正法眼蔵』 (弟子・懷舜『 ^{かいじゆう} 正法眼蔵随聞記』)	ひたすら座禅をすること(只管打坐)によって悟りを開く

(表:鎌倉新仏教のまとめ)

- 特徴…末法の世の中で、庶民が救われるための新しい教え⇒鎌倉新仏教(⇔南都六宗)
- ・禅宗系の2宗は少々例外的だが、一般に、救われるためには、
 - ①困難な修行はいらない(易行)
 - ②多くの経典からただ1つの教えを選ぶ(選択)
 - ③選んだ教えだけにすが(専修)…念仏(浄土宗系)・唱題(日蓮宗系)・座禅(禅宗系)
 という特徴を持つ。

■浄土宗系

- 法然…**浄土宗**/[総本山]知恩院(京都府)/[著書]『^{せんちやくほんがんにんぶつしゅう}選択本願念仏集』(革新的。旧仏教からの批判も多い(華嚴宗の高弁(明恵)『^{みょうえ ざいじやりん}摧邪輪』))
- 〈教義〉阿弥陀仏の本願を信じ、その名号(南無阿弥陀仏)を唱えること(称名念仏・口称念仏)と、仏・菩薩の救いの力=他力(⇔自力)を信じる事により、必ずどんな人でも極楽往生できる。
- ・本願…阿弥陀仏がその修行のときに立てた、すべての人間を救済するための誓願。→他力本願
 - ・専修念仏…他の一切の修行方法を捨てて、もっぱら念仏を唱える事。
- 親鸞…**浄土真宗**/[総本山]本願寺(京都府)/[著書]『教行信証』,唯円『^{たんにしやう}歎異抄』(親鸞の語録&唯円の批判)
- 〈教義〉師の法然の思想を突き詰める。悪人正機・絶対他力。
- ・悪人正機…阿弥陀仏は自力で悟れない人のために本願を立てた。⇒善人よりも、煩惱という悪にとらわれた、煩惱具足の凡夫という自覚を持つ悪人こそが阿弥陀仏の救いにふさわしい。
「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」(善人ですら往生できる。まして悪人ならなおさらだ!)
 - ・絶対他力…他力中の他力。救いのすべてが阿弥陀仏によるもの。→自然法爾…絶対他力の立場を示す
- 一遍(遊行上人・捨聖)…**時宗**/[総本山]清浄光寺(神奈川県)/[著書]弟子『一遍上人語録』
- ・踊念仏…念仏をとえながら踊ることによって時宗を広める。

センター問題に挑戦! No.5 (1998年追試) [標準]

絶対他力を説明したものとして最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① 阿弥陀仏に対する信仰の心すらも、阿弥陀仏から与えられたものである。
- ② 凡人は自力往生できず、優れた徳を持つ人間の力にすがらべきである。
- ③ 悪人こそ正機であり、阿弥陀仏に頼む必要があるのは善人の方である。
- ④ すべての生き物、山川草木、風や波も、念仏を唱えているのである。

[No.4の答②] ①×立正安国⇒日蓮宗。 ③×[全文]⇒曹洞宗の修証一等。 ④×太日如来⇒真言宗。]